

## 平成30年度第2回教育小部会議事録

日 時：平成30年3月22日（金）13:30～16:50

場 所：北海道赤れんが庁舎1階5号会議室

出席者：横井小部会長、安宅委員、稲井委員、

上原委員、大矢委員、辻委員、辻村委員、二井委員、

牧野委員、三上委員、光本委員、

坂本紀子氏（オブザーバー）

事務局：鶴原室長、中谷主幹、伊藤主査

1 開 会

2 小部会長挨拶

3 議 事

（1） 教育分野構成案について

（2） 教育分野資料編の各担当分量等について

（3） 今後の予定について

（4） その他

4 閉 会

## 1 開 会

## 2 小部会長挨拶

- ・ オブザーバーの坂本紀子氏（北海道教育大学函館校教授）の紹介。
- ・ 8月の小部会を開催後半年ほど経過し、その間、各自、作業を行っていたものと思う。教育分野の構成案について、今日は各委員が自分で作成した構成案をお聞きし、ポイントになる部分や作成の考え方、項目の重複や担当分け、不足している項目などを検討していきたい。

## 3 議 事

### (1) 教育分野構成案について

#### 【大矢委員】

- ・ 占領下の教育改革、特にアメリカ側の動きを中心に項目を書き出した。
- ・ 戦時中の教育に少し触れた上で、終戦直後の状況や日本側の自主的改革、その後、占領軍が進駐して軍政部が成立し、北海道でどのようなことを行ったのか、というあたりになる。
- ・ 4行目の括弧書き「教育基本法の制定」や「新しい教育法体系」は、他の担当との重なりが出てくるだろうと予想される部分。他の担当は領域に分かれているが、自分の担当分野は「占領下」ということで、他と重なり合う部分が結構ある。
- ・ 史料欄は、私がこれまでに使用してきた資料を羅列したもの。

#### 【横井小部会長】

- ・ 私と辻村先生が担当するところをどう棲み分ければよいか、二人で相談して整理したもの。
- ・ まだ資料の提示には至っていないが、通史編を念頭に置き、大きくどういう構成で道史を書いていくか項目を検討。50年代まで、60年代から70年代まで、80年代以降と、大きく3つの時期区分に分けてみた。
- ・ 最初の戦後の教育改革は、先ほど大矢先生が説明された部分。我々が担当する教育行財政、教育政策を叙述する上で、新しい体制がスタートしたという項目がないと進めにくいので、一応書いたものの、やはり大矢先生の方が大きく扱った方が良いと思う。
- ・ その後の、公選制の教育委員会の発足と、田中道政下の教育政策は辻村先生が担当し、その頃の財政状況や学校の設置整備は私が担当。
- ・ 新しい教職員制度や人事のやり方、研修のための教育研究所、教育会や校長会等の職員団体など、50年代にできてくる新しい項目は辻村先生と私で書き分けていく。
- ・ 60～70年代には、任命制教育委員会になり、高度経済成長期で組合運動が発展してくる時代に入るが、それらにあわせてこの頃の財政・条件整備についても触れる。
- ・ 80年代以降では、ポスト55年体制と言われる政治構造の変化や、行財政改革が進む中での、財政や教職員配置の見直しなどの諸問題について触れる。
- ・ 一応、2000年までで考えているが、私たちの分野では、80年代から90年代に変化の兆しが現れ、2000年代にはっきり出てくるため、資料には2000年以降のことも書き入れている。これについては後で検討したいと思う。

#### 【辻村委員】

- ・ 特に初期の頃は、校長会や教職員組合がかなり一体的にやっているところがあるため、横井先生とどういう書き分けになるのかは作業を進めつつということになる。

- ・ 全体的には、私が教育委員会制度と北海道全体の教育計画とを絡めながら総論的な部分を扱い、細かいところを横井先生と書き分けていくことになる予定。

#### 【三上委員】

- ・ 概ね横井先生の時期区分に沿って作成。それぞれの時期での高校教育のありよう、高校教育を取り巻く環境、学校間接続として、高校入試と大学入試の両方をここで扱ってはどうかと、主な事項を列挙した。
- ・ 2頁の最後に、この場で議論していただきたいことを追記した。入試の類いはここでまとめて扱えば流れがいいように思われるので、前後の方々と相談したい。また、高校教育を取り巻く環境として少年非行や専修学校のことも書いたが、これも他の分野の方々と相談が必要。さらに就職をどこに書いたらよいかということ。私のところで書くなら、それぞれの時代のところで書かなければならないが、総括的にどこかをお願いするという方法もある。

#### 【横井小部会長】

- ・ 川前先生は今日のご都合が合わずご欠席のため、資料を代読する。
- ・ へき地教育振興法の制度についての補足、各地で行われたへき地教育研究連盟の活動、各地にできてきたへき地校でのいろいろな指導法、複式学級のほか、へき地の教員養成や地域ビジョン、山村留学にも触れられると思う。

#### 【牧野委員】

- ・ 北海道の障害児教育の特色としては、広大な土地で障害児教育をどうするかという課題がある。道と北大の城戸幡太郎先生を中心に、障害児の教育には戦後すぐから力を入れ始めた。また、北海道が誇るべきことであるが、平成元年から、当時の横路知事が障害児乳幼児教育を始めている。障害児の疑いがあるだけでも見てもらえる施設を、車で1時間以内の距離に設ける制度を、厚生省が着手する前にスタートさせた。これは幼児期の話なので、稲井先生の分野に入るのか、障害児の分野として私が手をつけるべきか。
- ・ 近年、情緒障害児学級が登場するが、非常に多岐にわたっており、不登校児も含まれるので、安宅先生とどこで線を引くかも課題になる。

#### 【安宅委員】

- ・ 自分の分野は全体的に新しい時代のトピックが多いため、対象時期からはみ出すものも載せざるを得ない。
- ・ 教育問題・教育運動としては、不登校、いじめ、体罰、格差、貧困という多様化し複雑化する教育現場での課題を、さまざまな観点から資料や通知文書などに迫ってまとめていきたい。また、多様な学びへのニーズの高まりと民間団体の協力の展開としては、自主夜間中やフリースクールの動き、さらには学習塾などの教育産業を巡る動向という形で、設置状況や推移といった点を見ていきたい。
- ・ 外国人の子どもたちの学びとしては、朝鮮学校やインターナショナルスクールの動向、そして、最近の動きになってしまうが、奈井江や士別などの子どもの権利条例の制定状況や青少年健全育成条例、少子化対策関連条例などもある。
- ・ 高等専門学校については、国立の四高専や札幌の市立高専の変遷に焦点を当てていきたい。

#### 【光本委員】

- ・ 前回の構成案の中項目に記載されている事項は全て盛り込むべきだろうと思い、横井先生から提示いただいた構成案を修正していない。

- ・ 戦後の改革期を書くならば、新制大学の発足を最初の節として考えている。道内全ての大学が登場しないとまずいのではないかと心配もある。
- ・ その後、大学紛争の時代を経て改革が始まっていくが、改革の内容は非常にたくさんあり、どこまで詳しく書くかは字数にもよるが、そこでどういったことが問われたのかをまとめていく予定。改革と言っても大学が行った改革だけではなく、政策的に行われた改革もある。
- ・ 4節は2000年代の話で、これ以降は暗い話が多くなるが、それで閉めるのはどうかと思ひ、明るめの名前をつけた。
- ・ 三上先生が言われていた学校間接続については、入試問題としては大学の方にも関わってくるので、書き分ける必要があれば書き分ける。
- ・ 安宅先生のところで高専の話があったが、高専を巡る議論は同時に大学制度を巡る議論でもあったので、それに触れるとなると、私の方でも書く必要があるが、それをどこに書くか。もし、他のところで書いていただけるなら、簡略化して扱うとか、むしろ個別の大学の設置の事情や、その基盤になっている道民あるいは地域の進学要求や、進学の動向を中心にしようかと考えている。
- ・ 附属資料では、学校数や学生数の学校の変遷などについて一覧にした。

#### 【上原委員】

- ・ 専門高校、専修学校、各種学校、そして文科省所管以外の各種学校の沿革と概要をまとめていくので手一杯ではないかと考えている。
- ・ 教育研究所や道立図書館等に行き、専門高校や専修学校等の学校史を見ながら、設立の経緯や卒業生の進路を中心に調べたいと考えている。
- ・ 職業訓練校については、北海学園大学の木村保茂先生が、北海道の労働政策の関係で推移をまとめておられるし、専修学校については私が学校基本調査で設置状況や進学状況の推移をすでにまとめている。
- ・ 三上委員から問題提起があった入試の件に関しては、私の手に余ると考えている。
- ・ 光本委員と短大の扱いについて話したが、場合によっては私の方で扱うことになるかと思う。

#### 【辻委員】

- ・ 作業としては、割り当てられる分量の中にどのように配置していくかにならざるを得ないので、分量を先に決めていただきたい。
- ・ 社会教育の枠組みで、どういうレベルで考えていけばよいのか、視点を整理してみたのが資料1・2頁。基本的に、理念や法や制度のレベルの変遷、生活の変容や地域の特徴に関わる課題が、かなり大きな要素を占める。
- ・ 先ほど出た移行期の問題は、社会教育の場合では、青年学校の廃止から新制の高校、定時制高校、分校とそれに伴って社会教育の領域の青年教育がどう変わったか、その辺が全部連動して動いている。制度的には、青年学級は職業教育とも絡む部分。
- ・ 次に、地方自治体や地域社会での社会教育の実践レベルの話をどこまで入れるか。どこまでも対象を広げられるものを、どの辺で切るのかというところで悩んでいる。
- ・ 市民活動、社会分野といった他の社会分野との関連もある。さまざまな教育運動を中心に考えられるものを例記した。さらに、成人教育や生涯学習の領域をどのあたりまで入れられるかを考えている。

- ・ 3頁めに構成案を書いた。時期区分とカテゴリー区分をどのような風な形で入れ込んでいくのが、その時代を特徴付ける社会教育の動向として一番妥当なのか。その辺の判断が求められていると思う。
- ・ 懸案事項としては、配分される分量はどれくらいなのかということが一番大きい。
- ・ 次に、北海道教育史との関係では、あまりにも分量のレベルが違い過ぎるものの、80年代くらいまでは、重要なものを選んだら当然被ることになるため、実践にシフトしてよいか、ピックアップの視点みたいなものが悩ましい
- ・ さらに、青少年問題、青少年対策系の話では、社会教育の青年教育が比較的拡散し、むしろ総合行政としての若者となってくる90年代あたりまでを入れるかということが懸案になっている。

#### 【稲井委員】

- ・ 資料には、研究して気づいた北海道に関連する項目の年表と、中項目に当たるものを①から③で示した。なお、先行研究では、全国の保育普及の動向からみて、北海道は遅れて幼稚園、保育教育が広まったことが確認できた。
- ・ 国の動向も視野に入れつつ、北海道独自の動きや、団体の動きなども入れていく考え。
- ・ 今までのお話を聞いていて、障害児教育にも関わるし保育者養成をどうすればよいかとか、社会教育の中にも保育の話があるので、その辺りの調整を確認できたらありがたい。
- ・ 個別には、①の就学前教育・保育には、今のところ考えている項目を入れている。ここには入れてなかったが、季節保育所とかでも有名などころがあるかと思うので、追加する。②の子育てと③児童福祉は二井先生と関わる部分がある。長期欠席は小学校でも中学校でも関わるかと思ったので、下線・太字で示した。社会・文化小部会の方で「貧困」というのがあったとしたら、多少そちらとも関わるのかと思う。子どもの貧困とか母子家庭の貧困については、自分も扱えたらと思っている。

#### 【二井委員】

- ・ 稲井先生のところにも児童福祉が入っているので、稲井先生が書いてくれるのではないかと思われる部分を資料の右に「I」で示した。先ほど出てきたような形の時期区分に合わせしていくことも少し考えていかなければいけないと、お話を伺いながら思った。
- ・ 終戦になって浮浪児や引揚孤児などの問題が子どもの状態としてどうあって、行政がどう対応するかというところは、教護院や矯正院や少年教護院を中心に書いていくことになるが、今後稲井先生と相談しながら進めていきたい。
- ・ 私が確実に担当する「N」の部分は、児童福祉の中でも教護、あるいは少年法の下での矯正教育関係で、先ほど三上先生の方から少年非行の話が少し出ていたが、そこに関わるところの動向などは、自分がやるべきものと認識している。
- ・ 児童福祉を大きく分けると、社会的養護関係の問題と障害児福祉の問題に分かれると思うが、障害児のところは牧野先生にお願いして、私と稲井先生とで担当するところは児童福祉領域でも社会的養護問題かなということ、稲井先生と話していた。
- ・ 最後に、時期区分として97年以降も挙げているが、今までの先生方のお話を伺うと、80年代、90年代、プラス2000年代と一括して挙げるべきかもしれないと思った。
- ・ 児童福祉法の改正が97年、施行が98年で、それが北海道で具体的な形で変わっていくのが2009年頃なので、そこまで言及したいところだが、2000年までという対象時期を

どう考えればよいかを議論いただければと思っている。

- ・ 子どもの権利条約の批准という世界的に大きな動きを受けて児童の虐待に関する法律が2000年に制定されているので、その問題も書くべきではなからうか。

**【横井小部会長】**

- ・ 時期区分については、細かく分けている方と、自分のように大雑把に分けたケースとがあるが、大体は50年代の終わりくらいまでと、60～70年代、そして80年代以降と、ある程度は共通している。
- ・ 児童福祉、社会福祉は90年代の終わりに制度改正があり、実際に変化するのが2000年代からで、学校教育でも同じようなことが起こっている。刊行されるのが10年後だとすると、どこまで現代に近づいていいのか。ただし、分量の問題があって、期間を延ばせば延ばすほど内容が薄まってしまうかもしれない。
- ・ 辻先生から『北海道教育史』との関連の問題が提起されたが、戦後の早い時期の資料を多く掲載すべきと思うので、気にしないで書き直してもらっても差し支えないと思う。

**【辻委員】**

- ・ 『北海道教育史』に比べると、こちらは分量が少なく盛り込みたいものも盛り込めない状況の中、書き直すのというのは少し難しいと思っていた。

**【横井小部会長】**

- ・ 『北海道教育史』の不足分をきちんと補うような姿勢で取り組んでいただければと思う。当初は、高度成長期以降を扱うという話だったが、『新北海道史』は必ずしも十分でないので戦後から見直すべきという話になり、戦後から扱うことになった経過がある。
- ・ 皆さんは詳細なものを作られてきたが、分量が限られており、全ては載せられないのが正直なところ。分量は後で相談させてもらうこととして、まずは内容上の重複・分担について相談していきたい。
- ・ 戦後の教育改革は、大矢先生が担当する「占領下の教育」と重なり、社会教育なども含めて他分野にわたるが、まとめて大矢先生にお任せすることになるのか。

**【三上委員】**

- ・ 大矢先生が取り上げるのは、あくまでアメリカ側のスタンスだけだと思っていた。

**【大矢委員】**

- ・ 私は、アメリカ側が新制高校をこうしろと言ったことは書けるが、新制高校がいくつできたかなど、ひとつひとつの項目についてまで詳しく触れるつもりはなかった。新しい世の中になって、例えば、教育基本法体制になったなど大きな事柄はよいが、それぞれの項目について細かく取り上げるつもりはなかった。

**【横井小部会長】**

- ・ 大矢先生には、冒頭で、新しい時代になったその概略と軍政部の活動を書いてもらい、占領期の個別の項目に係る詳細は、各々の分野が担当する方向でいきたい。

**【上原委員】**

- ・ 専門学校は地域性が強く、支庁によって設置状況や進路状況が異なる傾向があるが、それをどこまで追跡すべきか。

**【横井部会長】**

- ・ 商業高校・工業高校も含めて高校全体は三上先生にやってもらうが、職業教育と人材養成、

就職関係、職業斡旋などは上原委員に全部まとめてやってもらいたい。

【三上委員】

- ・ 職業高校は着々と減っていき、全日制の普通科ばかりになっていくのだが、あまり職業高校を深く掘り下げていくとバランスがおかしくなると思っていた。上原先生の方で就職関係をメインにやってくれるなら、こちらは学校ができたとか消えたとかに止めたい。普通科の進路・就職は職業以外に進学も含まれてくるので、こちらが中心になるかもしれない。定時制も昔は社会教育と融合しながらたくさんあったが、その後減少して都市部の特別な学校になっていくので、そこはあまり深入りせずやっていこうと思っていた。

【横井部会長】

- ・ 全体的な進路は三上先生が担当し、専門的な人材育成は上原先生に担当していただきたい。課程別の進路データをお持ちの上原先生に先に手がけてもらって、後で三上先生にみてもらうのはいかがでしょうか。大学入試は高校教育の方で担当することによってよろしいか。

【三上委員】

- ・ こちらで書くとすれば、アドミッションポリシーとかではなくて、どんな入試制度でどんな生徒を大学に送り込んでいくかという視点になる。

【光本委員】

- ・ 大学の方で入試を扱うならば、道内の大学の偏在とか、一時期までは私立の四年制大学が非常に少なかったのが、道外に流出せざるを得なかった状況がある。その辺も高校の問題として書かれるつもりなら、お任せする。

【横井小部会長】

- ・ 高校教育では入試や受験勉強を書いてもらい、大学教育では、入学する学生の確保などの動きを取り上げることになると思うが、そういう部分は光本先生の方で書くことになる。

【光本委員】

- ・ 大学の数や配置とその計画や実施については、大学教育の方で取り上げることになると思う。専修学校は三上先生にお任せすることとして、少年非行を挙げているがそれはどういうことなのか。

【三上委員】

- ・ 教育委員会公報をずっと見てきたが、中学・高校側に対し少年非行の指導をきちんとするようといった通知が、長い休みに入る前に毎度出されていた。学校教育で触れるべきか、それともまとめて少年司法福祉で取り上げることになるのか。

【二井委員】

- ・ 自分が学校の資料をあらためて見ることにはならないと思うのと、資料編の解説を書く際は学校の性格を語りやすいと思うので、学校の方で出てきた非行は学校教育で扱い、司法関係のデータに出てくるものはこちらで扱うことにしてはどうか。

【三上委員】

- ・ へき地教育については、川前先生の方で小中学校をお書きになるようだが、へき地の高校もなくはないので、そこはどうなるのか。

【横井小部会長】

- ・ 川前先生が扱うのは、高校も過疎地の小規模校は当てはまるイメージでいたが、川前先生の構成案はへき地教育振興法に特化してつくられているようなので、川前先生の考えをお聞

きした上で分担を考えさせていただく。

- ・ 障害児教育について、不登校と関係がでてくるのですね。

**【牧野委員】**

- ・ 昭和40年代後半に情緒障害児特殊学級というのができて、自閉症の子や不登校の子も対象としていた経過がある。不登校児ばかりを集めた適応指導教室が置かれるのはだいぶ後になってからだが、自分は不登校についてはあまり詳しくはない。

**【横井小部会長】**

- ・ そうであれば、安宅先生にお願いした方がよいかも。安宅先生の不登校はもっと広いイメージですね。また、全国に先駆けて行われた情緒障害児学級については、牧野先生の方でおやりになられた方がよいと思う。

**【安宅委員】**

- ・ 貧困については稲井先生と重なることになると思うが、福祉からのアプローチが強く、教育現場で貧困問題が顕在化されてくるのは比較的最近のことになるので、私の方で担当するのは学校教育に関する就学援助関連に絞ったほうがよいかと考えている。

**【横井小部会長】**

- ・ 貧困については稲井先生と二井先生の方で主に扱うということによろしいか。

**【稲井委員】**

- ・ 貧困については、私の方で対応させていただく。

**【安宅委員】**

- ・ 塾に関して、受験競争とか高校・大学志願倍率の背景については、三上先生や辻村先生が時代背景的なところに触れられると思われるので、そちらにお任せしたい。自分は塾など教育産業を巡る動向に絞って書きたいと考えている。

**【横井小部会長】**

- ・ 教育産業が発達してきたところは安宅先生がお書きになり、受験勉強については三上先生が書くという案でいかがか。また、予備校はどう扱うべきか。

**【三上委員】**

- ・ 予備校は高等学校の問題だと思う。予備校なしでは高校の進路指導は成り立たないので一体的なものがあると思う。一方、学習塾と小中学校教育は一体的なものではない。高校受験の塾であれば別途切り離してそちらで扱った方がよいと思うが、大学受験となると高校と絡めて書く方が自然ではないかと思う。全体的な受験産業ということでお書きいただき、高校受験については特に力を入れて書いてくださいとは言い難い。

**【横井小部会長】**

- ・ 受験産業という項目があってもいい気がする。どこに入れるべきか考えてみてはどうか。

**【安宅委員】**

- ・ 高専について、先程光本先生の方から、高等教育の設置の理念や経緯のところ、どのように分担すべきかとの提起があった。正直、高専以外の短大や四年生大学については、私の方では対応できないと思うので、高専は切り離して書かせていただければと思う。

**【光本委員】**

- ・ 高専を巡る議論は、結局、高等教育制度の改革論で、それをどちらが書くのかということのこと。自分はどちらが書いても構わないと思っている。



【横井小部会長】

- ・ それでは光本先生にお願いしたい。構成案では短大は光本先生のところに入っているが、職業教育ということでこれを切り離し、上原先生に担当していただくことでよろしいか。

【上原委員】

- ・ 分量的な問題があるのでどこまで触れられるかわからないが、それで構わない。

【光本委員】

- ・ 共通一次試験、センター試験など入試制度改革については、どう取り扱うか。国大協が中心となって文科省とすり合わせながら実施した経緯がある。

【横井小部会長】

- ・ これは北海道の教育史なので、全国的な動向についてはさほど細かく書く必要はないと考えており、それが地域の中でどのように受け取られたかということがあればよいと思う。

【三上委員】

- ・ 北海道限定と言うと、大学側であまり独自のものはなさそうな気がする。高校側も特にないと思うが、共通一次実施を巡って全国型の予備校が全道各地に手を広げてくる、受験産業が北海道にやって来るといったことは、高校側でも書けると思う。そういう意味ではこちらで書いた方がよい気がする。

【辻委員】

- ・ 全体の分量に合わせて何を引いていくかというときに、何をどう引いていけばよいか判断できなかった。

【横井小部会長】

- ・ 農村生活というのは大事だが、社会・文化でも扱いますよね。

【事務局】

- ・ 農村の生活、漁村の生活、炭鉱の生活、都市の生活として取り上げ、それぞれで変遷や課題を扱うので、その後で教育と結びつけると流れとしてはいいのかと思う。

【辻委員】

- ・ 生活の課題を自分たちの学習課題にしていくのが社会教育の現場の実践なので、実践ベースの話を書こうとすると、どうしてもそのような流れになるし、いろいろな社会領域とつながっている方が読み手としても読みやすいと思う。しかし、分量が少ないようなので、いっそのこと制度の枠組みだけの話にした方がいいのか迷うところ。

【横井小部会長】

- ・ 制度の枠組みの話だけだと無味乾燥になるので、実践なり実際の話を入れるべきだと思うが、分量の関係上無限に入れられないので、部分的に何を入れるか考える必要がある。

【辻委員】

- ・ いただいた分量の中でどう配分するかを考えざるを得ないと思っており、例えば、公民館は何をベースにできているかを考えると、農村生活に触れないわけにはいかない。

【横井小部会長】

- ・ 例えば、障害者教育に関連する場合は、そちらで触れてみてはどうか。

【牧野委員】

- ・ 障害者教育もいろいろな分野が重なり合う部分が多く、その項目が社会教育なのか福祉なのか整理がつかない。辻先生が仰るように、分量が決まってから、何を入れて何を削るか検

討することになると思う。

**【横井小部会長】**

- ・ 三上先生の高校教育の場合では、学校の改廃のほか、生徒会活動とか、50年代は高校の古き良き時代だったと聞いているが、そのようなことにも少し触れていただきたい。

**【辻委員】**

- ・ 生涯学習の場合は、法律の話、制度の話、地方自治制度との関連などが当然入ってくるので、むしろ分量に合わせてどれを切るべきかというところ。

**【横井小部会長】**

- ・ 今の件については、制度や枠組的なところを書きながら、可能であれば、時代なり地域的なことを表す実践的な取組を紹介することを意識しながら書いていただきたい。例えば私の担当分野で言えば、指導主事ができたことだけで終わらせるのではなく、それがどういう役割を果たしたかまで触れるべきと考えており、皆さんにもそういうことを意識して中味を膨らませて書いていただきたいと思う。
- ・ 社会教育の重複する部分のうち、高校設置運動は高校教育の方に任せるか。

**【辻委員】**

- ・ この時期のことは自分が書く必要はないかなと迷いながらも、高校設置運動というのは、戦後の青年団運動の中では結構重要なことなので挙げている。全体のバランスから見てトピック的にならざるを得ないような分量ならば、近接領域もあるし自分の方ではカットするという選択もあると思っている。

**【横井小部会長】**

- ・ 高校教育の方で青年団運動のことまで取り上げるのは難しいと思うが、私の方からは、先生が重要だと思われるものを取り上げてくださいますとしか言えない。削り方としては、分量に合わせて社会・文化や高校教育などで取り上げてくれそうところは落としていくことになると思う。後は、福祉事業の中で展開された障害児教育に関わる部分は、牧野先生にお願いしてよろしいか。

**【牧野委員】**

- ・ 障害児教育は、幼稚園、保育所、療育センター、昔の医科大、母子通園センターなどいろいろな分野からの支援の形があるので、障害児の教育や、その前の段階の教育は私の方で拾い上げていきたい。

**【辻委員】**

- ・ 社会教育の項目に保育所の設置運動を挙げているが、児童福祉と関連する部分なので、学童保育も含めて稲井先生にお任せしたい。

**【横井小部会長】**

- ・ 二井先生が項目として挙げられた子どもの権利条例は2000年を過ぎてからの話になるが、児童虐待防止の流れと関連し、道史の対象時期からはみ出るということで、切ってしまうのはいかがかという気がする。2000年は厳守だったか。

**【事務局】**

- ・ 歴史は流れなので、通史など叙述する上では、単純に切ってしまうと不自然なことになりかねない。この問題に関しては、他の部会でも話題になっていて、資料編に掲載する資料は2000年あたりで切ることにして、通史編では、章立てするまでもないが、この流れの先にこ

んな動きがあったという叙述をする。その後は50年後に行われるであろう次の道史に委ねようという意見が出ていた。

- ・ 各部会で扱いが違っていると困るので、次回の企画編集部会で方向性を定めていただくのがよろしいかと思う。

**【横井小部会長】**

- ・ 行財政の場合だと、新しい資料はホームページで大量の資料が拾える時代になっているので、資料編にはネットで取れないような資料を重視する方向で進めたい。社会福祉基礎構造改革のあった90年代後半から構造改革期にかけての話は、通史のところで、分量的にさほど多くならない形で触れていただくことにしたい。

**【事務局】**

- ・ 新聞記事の見出し採取を行っていて、ベビーブームによる教室不足や脆弱な校舎など教育環境の問題や学校給食の問題、農村・漁村・炭鉱街などで子どもを預ける所がなく下水溝に子どもが落ちて死んだなどの記事が結構出てくるが、このようなものが入ってくるのか。

**【横井小部会長】**

- ・ それは全て触れるべきことだと思う。どこで取り上げるべきかということ、学校給食は一応小中学校のところに入れており、すし詰め教室の問題は、行財政のところでも大きな問題なのだが、小中学校との関係が難しいので、そこは相談して決めたいと思う。

**【三上委員】**

- ・ 学校給食だけなら小中学校に入れてもいいと思うが、全体的な話にするのであれば、教育問題・教育運動で触れるのが自然だと思う。

**【横井小部会長】**

- ・ それは私の方で考えさせていただきたい。

**(2) 教育分野資料編の各担当分量等について**

**【横井小部会長】**

- ・ 資料編は1000頁、目次などいろいろなものを差し引いていくと900頁で、社会・文化が6割・教育が4割とすると360頁。分野によって軽重があると思うが、これを単純に12人で割ると1人当たり30頁。なお1頁は850字程度になる。今日の構成案を勘案しながら、次の小部会までに、こちらでたたき台を作成することとし、後は出てきたものを見て調整しようと思う。

**(3) 今後の予定について**

**【横井小部会長】**

- ・ 来年の6月までに資料調査を終わらせて、どれを資料に載せるかを決めて解説の執筆に入ってくださいということになる。資料を決めるまであと一年半くらいしかないので、できるだけ急いで作業に入ってください。分担の調整の方は、近接領域の委員の間で随時連絡を取り合うなどして進めていただければと思う。
- ・ 小部会の開催については、次回は夏休みに入った8～9月頃を考えており、できれば各担当部分の3分の1くらいは作業を進めておいてほしい。

#### 【牧野委員】

- ・ 実際の作業の進め方について、例えば、1990年代の障害児教育に関する資料はこれ、といったように、時期区分ごとにモザイク的に資料を示していくということになるのか。それぞれの分野に応じた時期区分があるように思うので、機械的に10年ごとに区切った方がやりやすいような気がする。また、各委員からランクA・B・Cというように資料に優先順位を付けて出すのもよいかと思う。

#### 【辻委員】

- ・ 今の議題は時期区分の問題というよりは、いろいろなテーマが交差して最終的な形のイメージになるのか、それともテーマごとに縦割りにいくのかということですよ。自分の担当する分野の中で、資料を20本なら20本挙げて、その分量が各期によって多い少ないの波ができると思うが、時期によって資料の濃淡ができて当然だと考える。

#### 【横井小部会長】

- ・ 作業的には、それぞれの分野で現代までやっていただいて、時期区分については、資料を出してもらい全体をみてどのように分けるべきか考えたい。当然分野によって動きの大きかった時期が異なるだろうし、時期によって資料の本数に濃淡ができるのは致し方ないものと考えている。

#### (4) その他

##### ①委員・協力者の追加について

#### 【横井小部会長】

- ・ 今回坂本先生にお越しいただいた。先生にはぜひメンバーになっていただき、小中学校の学校教育を担当していただけると大変ありがたいと考えている。何かご質問や確認されたい事項はあるか。

#### 【坂本教授】

- ・ 通史を書くにしても、資料選択をするにしても、最終的な判断材料として、北海道の特徴を出しつつ北海道の教育史を書いていくべきだと考えている。実践的な部分を書く場合に、へき地での教育などが北海道の特徴かなと考えているが、小学校・中学校を担当した場合、北海道の特徴として何を出せばよいのか、今のところ見当がつかない。

#### 【横井小部会長】

- ・ 実践の部分にどこまで触れられるか難しいところではあるが、その時期その時期の小学校中学校教育の展開について、重要な部分を書いていただくしかないと思っている。

#### 【坂本教授】

- ・ 中学校には、戦後新設された中学校や地域によっては小学校の中につくられたものもあるし、男女共学の問題や、最高裁までいった旭川の試験の問題などいろいろあり、小・中両方を担当するのは難しい。

#### 【横井小部会長】

- ・ 何を書くかについては、全国の戦後教育史を参考にしながら、北海道の中でどう書けば良いか坂本先生の構成案を出していただけないか。

#### 【坂本委員】

- ・ 私にとっても勉強になるので、できれば携わらせていただきたいが、資料収集する時に

どの程度動けるのか、動いていただけるのか。個人ではどうにもならない資料を収集可能か。

**【横井小部会長】**

- ・ 編さん室の職員に協力してもらえる体制が整っている。皆さん締め切りを目指してがんばって動いていただいている。

**【大矢委員】**

- ・ 小学校中学校の中で配分を考えた方が良いので、小学校と中学校を分けることはしない方が良い。坂本先生に中心になっていただければ、自分ができる部分をやらせていただくことは可能。

**【三上委員】**

- ・ 高校の方は北海道教育委員会公報を全部読んだ。目次のタイトルで北海道らしいものをピックアップし、北海道独自のものを見つけて、新聞雑誌調査や実地調査に行かれてはいかがか。

**【坂本教授】**

- ・ 川前委員担当のへき地教育とも関わりがあり、どのようにしていくか。川前委員のやりたいところ・ご専門のところはお願いした方が良いので、それを聞いた上で考えたい。

**②アイヌ関係について**

**【横井小部会長】**

- ・ アイヌ関係は小川委員が全分野に渡って考えることになっており、次回の小部会の際に、小川委員に出席いただいて、アイヌ関係の資料をどのように入れていくのか、各巻にどのように関わられるのか、お考えを聞かせてもらおうと思っている。その前に小川委員から要望があった場合は、皆さんに連絡させていただく。

**③新聞記事項目年表の状況**

**【事務局】**

- ・ 道新縮刷版刊行以前の昭和20年から42年までの道新記事の見出しを採取し、エクセルの表に入力する作業を進めており、6月位を目途にお渡しできるよう進めている。

**④資料調査について**

**【事務局】**

- ・ 今年度の資料調査は、主に道立文書館での調査が多い傾向にあり、同館のほか、道立教育研究所、道立図書館、道立特別支援教育センターなどで実施した。
- ・ 事務局から調査先に対して事前に調査協力を依頼し、先方と調査日程を調整する必要があるため、前もってご連絡いただきたい。
- ・ 道立文書館は、江別移転のため今年の9月いっぱい閉館となり、来年4月の開館までの間は、文書館での資料調査ができなくなる。文書館での資料調査を予定されている方は、早めに資料調査を行っていただきたい。

**⑤メール送信の方法について**

**【横井小部会長】**

- ・ 事務局への要望として、メールにファイルが添付されている場合のパスワードの扱いがわかりづらい。また、bccで送られると自分の他に誰に送られているのかわからないので、

見える形で送っていただきたい。

**【事務局】**

- ・ 添付ファイルの件はパスワードの表示方法等について改善を検討する。

**4 閉 会**

(了)